



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第128号

2014.9.15

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつかっています。

もくじ

お知らせ

一 観察会の日程の変更について

活動報告

一 深入山の植物観察会

観察会案内

- 一 サツキマスの産卵床作り
- 一 サツキマス保全の試み
- 一 キノコ観察会
- 一 紅葉・冬芽の観察会

お知らせ

● 観察会の日程の変更について

観察会の日程が変更になりました。変更後の日程は以下の通りです。お間違えのないよう、ご注意ください。詳細については、次号以降の苅尾電波塔、またはホームページにてお知らせします。参加には事前のお申し込みが必要です。

八幡高原の野鳥観察会

11月15日（土）→11月16日（日）

千町原 秋の保全活動

11月16日（日）→11月15日（土）

観 察 会 報 告

● 深入山の植物観察会

開催日時：2014年8月30日(土) 9:30

講師：大竹邦暁・佐久間智子・和田秀次

久しぶりにすっきりとした青空の中、深入山の植物観察会が実施されました。深入山は、毎年春に火入れなどの保全活動を行っており、そこには様々な草原生植物が見られます。今回の講師は植物の専門家である大竹先生、佐久間先生、和田先生です。33名と多くの参加者が、いこいの村ひろしまに集合し、深入山についての事前学習を行いました。

初めに、大竹先生から深入山の成り立ちについてお話いただきました。深入山がある安芸太田町戸河内は、花崗岩と、その上を覆う流紋岩からなる、大きなマグマの堆積物だったそうです。長い年月の間に削られて谷と丘ができ、その丘の1つが深入山だということでした。

続いて、深入山の植生について、佐久間先生が解説されました。深入山では282種の植物が生育していて、その内111種が草原生だそうです。また、絶滅危惧種が11種、その内の8種が草原生植物であることを聞きました。

最後に、草原維持のための火入れについて映像を視聴しながら、和田先生に説明いただきました。映像は北広島町芸北で同じく火入れを実施している雲月山のもので、火入れをする周囲の草を事前に刈って防火帯を作っている様子や、上昇気流が発生し、煙が渦を巻きながら上がっていくシーンなどがありました。

事前学習を終え、植物観察を行います。南登山口から山頂まで登り、林間コースを下って再び南登山口に戻ってくるルートを歩きました。

和田先生が「近くにある花をじっくり見ると一緒に、時々視線を上げて風景も楽しみながら歩きましょう」と、深入山の草原に広がるキキョウやママコナの群落を示しながら話されました。登りでは、キキョウ・ママコナ・オミナエシ・ハバヤマボクチ・オオナンバンギセル等が見られました。特に、ススキ等のイネ科に寄生して成長し、ススキの根元で咲くオオナンバンギセルを目にした参加者からは、驚きと共に感嘆の声が上がりました。

8合目辺りでお昼を食べた後、頂上を通り、林道コースを歩きます。

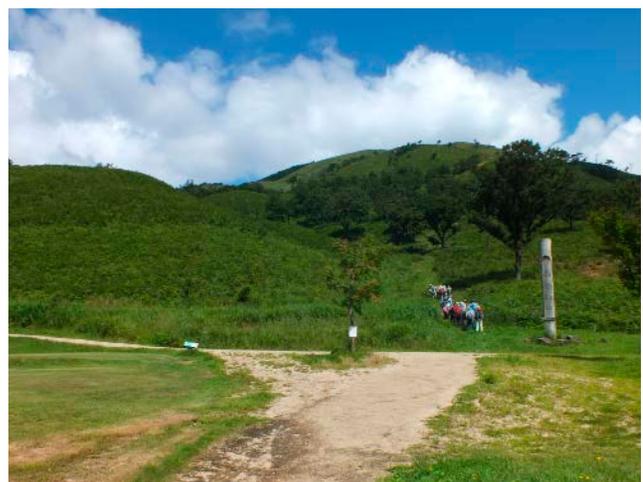
下りではマツムシソウ・ワレモコウを観察しました。頂上付近の陽当たりの良いところでも、登りとは違う種が見られました。林道沿いでは、アキチョウジ・キバナアキギリ・ミヤマママコナ等、日陰や湿ったところを好む植物が見られました。午前中に観察したママコナとミヤマママコナを、苞(ほう)の鋸歯(きよし)の有無で見分けたり、キバナアキギリの吸蜜に訪れた昆虫が花の奥に潜り込むと、花の上部に隠れていた雄しべが下がってきて昆虫に花粉をつける仕組みを観察しました。

南登山道入口に戻り、講師の先生からまとめの話をして解散となりました。解散後も、植物観察を続けたり、参加者同士で情報交換を行うなど、終始賑やかな観察会となりました。

(ありみつまさかず)



深入山とその近隣の草原に生育する植物の種数についての解説。参加者は、気になる事をメモにとるなど、熱心に話を聞かれていた。



南登山道から深入山に登る。



登山道脇に咲いていたカワラボウフウについて、説明する大竹先生と和田先生。



ススキの根元には、オオナンバンギセルが咲いていた。



頂上を背景に、笑顔で1枚。

【みなさんの印象に残った物】

「初めて見られた植物もあって、とてもよかったです」「自然が大変よい、花が沢山ありよかったです」「たくさんの花に出会えたこと(2)」「地質の話が良かったです」「秋の草原のさわやかさ。キキョウの多さにおどろきました」「ヒキヨモギ(2)」「オオナンバンギセルがきれい(2)」「2種類のヤナギの勉強ができた」「キキョウの多い事。ホソバシユスランがたくさんあった事」「キノコとモウセンゼニゴケがネバネバしていたこと」「たくさんの花に出会えた事」「秋の七草の一部が見れてよかった」「珍しい花の名前を教えてもらえて良かったです」「花の種類が多かったこと」「ツクシコゴメグサのなんと小さなこと！それでもたくましく生きている！」「花の多いこと」「花のみならず、地質や成り立ちについての説明もあったので、とても興味深く、楽しく過ごさせてもらいました」「花の種類が多かったこと」「色々秋の草がでてきて、楽しく嬉しかった」「キキョウの花がたくさん咲いていて圧巻でした(2)」「花の名前が種々分かってよかった」「カナビキソウに会えて良かったです。初めて見ました」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「とても楽しい1日でしたありがとうございました(5)」「分かりやすい講義、感謝いたします」「いろいろ詳しく説明していただきよくわかりました」「西中国山地はなかなか訪れることが少なく、素晴らしい会で印象的でした」「説明、進行が丁度良い」「久しぶりの天候に恵まれてとても気持ち良かった(8)」「天気は快晴。気持ちよく登山ができ、久しぶりでしたが登れたのでうれしかった」「多くの花を見れて良かったです」「さわやかな山頂は素晴らしかった」「この時期はお花が多くて楽しかったです」「天候にも恵まれて、説明がしっかりされて良かったです」「今日は晴れてラッキーでした。花も景色もきれいでした」「キキョウの花の色に感動しました」「天気も良くて楽しい会でした」「参加人数が多く、3人の講師の方が分かれて説明してくださったので、とてもよかったです」

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳

作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● サツキマスの産卵床作り

開催日時：2014年10月4日(土) 9:30

集合場所：八幡高原センター

講師：内藤順一

準備：作業セット、着替え、タオル

定員数：30名

参加費：無料

北広島町八幡地区では、10月上旬に、聖湖からサツキマス降湖型が産卵のために還ってきます。しかし、上流域は水深が浅いと、アオサギの存在のため、なかなか産卵に至りません。そこで、産卵のリスクを減らす為に、産卵床を整備します。自分達が整備した産卵床に、産卵するかもしれませんよ。

● サツキマス保全の試み

開催日時：2014年10月13日(月・祝) 9:30

集合場所：八幡高原センター

講師：内藤順一

準備：基本セット、長靴、暖かい服装

定員数：30名

参加費：一般=300円

賛助会員=100円

正会員・中学生以下=無料

農業堰に留まっているサツキマス降湖型を捕まえて、上流へと運びます。ヒトが遮断した堰は、ヒトが手助けする取り組みです。10月4日開催予定の「産卵床づくり」により、多くの個体が繁殖するよう願うばかりです。川辺での観察会となりますので、暖かい服装でお越しください。

● キノコ観察会

開催日時：2014年10月18日(土) 9:30

集合場所：聖湖キャンプ場 駐車場

講師：新谷正信

準備：基本セット、かご

定員数：30名

参加費：無料

※今回はSAVEJAPANの支援を受け実施します

秋といえばやっぱりキノコ。山を歩いて探したキノコを、専門の先生に同定と解説をしていただきます。名前とその由来、特徴や生息環境などを、楽しみながら学びましょう。見つけたキノコを入れるためのカゴをご用意ください。

● 紅葉・冬芽の観察会

開催日時：2014年11月3日(月) 9:30

集合場所：高原の自然館

講師：斎藤隆登

準備：基本セット、暖かい服装

定員数：30名

参加費：一般=300円

賛助会員=100円

正会員・中学生以下=無料

植物達はどんな姿で冬を過ごしているのでしょうか。冬芽にも植物ごとに特徴があり、その違いをルーペでじっくり観察します。花や葉がない冬でも植物を楽しめるようになりますよ。紅葉を楽しめる季節でもあります。暖かい服装でお越しください。

雨が続いた8月から挽回するように、晴れの日が続いています。八幡高原では、アケボノソウやタンナトリカブト、サラシナショウマ等の涼やかに秋を彩る花が見頃を迎えました。もうしばらくすると、千町原ではススキが白い穂を揺らし始めます。ゆっくと秋が深まっていく八幡高原をぜひご堪能ください。(ありみつ)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしています)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info